

修学旅行先をめぐる知事の発言に関連して

	タイトル	意見等
1	後藤田知事の修学旅行をめぐる一連の言動に対する抗議及び説明要求	修学旅行をめぐる一連の発言、働き掛けに強く抗議します。これはもはや単発の失言ではなく、長期間にわたり特定の行先へ学校を誘導しかねない言動が繰り返されている重大な問題です。 2025年12月11日の県議会では、生徒が校長に見せた知事の動画が「修学旅行は国内ではなく韓国へ」という趣旨だったと県教育委員会が答弁しています。修学旅行先は教育的意義、安全性、費用、生徒・保護者の意向等を踏まえて各学校が主体的に決定すべき事項です。 それにもかかわらず、2026年8月24日には北海道への修学旅行について「クマが出たら終わり」と述べ、海外へ行く高校との間に「差が出る」「選択で淘汰される」とまで発言しました。しかも徳島県自身が北海道側に対し、修学旅行でクマに遭遇した事実も遭遇の可能性のある行程を組んだ事実もなかったと説明しています。十分な事実確認なしに危険性を強調したのであれば県政の最高責任者として極めて不適切です。 さらに北海道知事から正式に「看過できない」と遺憾の意を示されたにもかかわらず、知事は発言を撤回・謝罪せず、「注意してほしい趣旨だった」との説明にとどまっています。しかし、「差が出る」「淘汰される」との発言や従前から繰り返されてきた韓国への働き掛けとの整合性について十分な説明がなされたとは到底言えません。 一連の言動は、教育の自主性・公平性への配慮を著しく欠き、徳島県知事としての資質・適格性に重大な疑義を抱かせるものです。韓国を繰り返し推奨する理由、航空政策との関係、クマ発言の客観的根拠、「淘汰」の真意を明らかにし、必要な発言の撤回・謝罪と今後学校の自主的判断に不当な影響を及ぼさないことを明言するよう強く求めます。
2	四国にもクマは生息している	林野庁四国森林管理局の四国山地におけるツキノワグマ生息調査の結果について～「はしっこプロジェクト2025」～によると 2017年（H29）時点で16～24頭だったのが2025年では最低25頭が識別された、子連れもいたとなっている。確認できた分布域は剣山系周辺となっている。 今年の四国山地は夏場 高温、少雨でした、もしかしたら秋になってえさ不足が顕著になり腹ペコのクマが山里に降りてくることも有るかもしれない。柿の実がいっぱいあるから。 そうすると北海道はクマが出るから危険だと差別発言をしている場合ではなくなるし、本州全域にクマの出没情報は出ているから 徳島から修学旅行に行く場所がなくなる。 それで逆手を取って 韓国をすすめているのだろうか？ そんな気の利いた発言には思えないが。 自国の修学旅行生の乗った船が沈没したが その船長が我先に脱出してきた破廉恥事件があったのは どこだった？ なお 韓国は北海道との交流はずいぶん歴史がある、観光先としての人気も北海道がダントツである。徳島を切っても「痛くもかゆくもない」かもしれない。友好関係って一方的な思い込みかもしれない。